

前回はキャリア観の違いを踏まえて、Z世代の特徴とその関わり方を検討した。今回はSNS（交流サイト）の普及が彼らの対人関係に及ぼしてきた影響を考えてみたい。

2008年、iPhone（アイフォーン）のリリースと同時に、

ツイッター（現X）とフェイス

ブックの国内サービスが始まった。そして11年に国内サービスを開始したLINEは、今や生活インフラと化している。Z世代はSNSを通じて人間関係を築い

てきた世代といえる。リアル社会での友人とすらSNSで対話することにとどまらず、SNSを通じて知り合った顔も名前も知らない

SNS上のコミュニティは一種のムラ社会である。集団の価値観に沿わない発言はたかれかねず、瞬間に仲間外れにされかねない。こうした社会で生き残るべく、

彼らは相手によって自分の見せ方を慎重に調節する。これは近年の若手社員が職場において主体性が乏しく

SNSが及ぼす影響を知る

Z世代と働く(3)

映る一因とも考えられよう。

ではドーパミンが分泌されることが分かっている。ドーパミンは脳内報酬とも呼ばれ、モチベーション向上

友人がいることも珍しくない。そんなZ世代が対人場面で意識しているのは、場の空気を読み、キャラクターを使い分けることだ。SNS

者の反応を過度に意識して疲弊してしまうことは想像に難くない。SNS上で「いいね」やポジティブな反応をもらうたびに、脳内

過去の失敗体験まで包み隠さず語る上司がいるとしよう。皆さんがミスを犯した際、どちらの上司が報告し

次回回は「『辞め方』を読み解く」と題し、近年の若手社員の退職姿勢からその特徴を論じていく。

(毎週木曜日に掲載)

宮本 直樹（みやもと・なおき）コンサルティング事業本部組織人事BU HR第4部 アソシエイト



えないと不安が急激に高まるのである。では、そんなZ世代とどう関わるべきか。まず、相手の出方を慎重にうかがう

SNSでの「いいね」は、その発言内容が絶賛に値するものでなくても慣習的に付与する傾向があり、特に仲間内では「見たよ」のサインに近い。これと同様に、

